

ドローンで害獣監視

キャリオ技研 愛知県と実証実験

【名古屋】キャリオ技研（名古屋市中村区、富田茂社長、052・627・0495）は愛知県と協力し、2月上旬に同県設

楽町でドローンを使った害獣捕獲システムの実証実験を始める。設置した山林において、害獣捕獲状況を監視し、獣害対策の負担軽減効果などを検証する。2019年をめどに事業化し、21年8月期に売上高6億円を目指す。実験では動物の種類

を認識するカメラを搭載したおりを最大で約160万平方メートルの山林に設置する。捕獲する必要がない動物が近づいた場合は動物が嫌う周波数の音を発生させる装置の搭載を予定している。

類や大きさを遠隔地で把握できる。害獣をおりに誘引するためにドローンで餌を投下し、捕獲効率を上げる。ドローンとシステムを組み合わせた販売価格は300万円程度になる見込み。事業化後は全国の農協や猟友会などに提案する。